

## 第2章 坂戸市の現状

## 第2章 坂戸市の現状

### 1 統計からみた現状

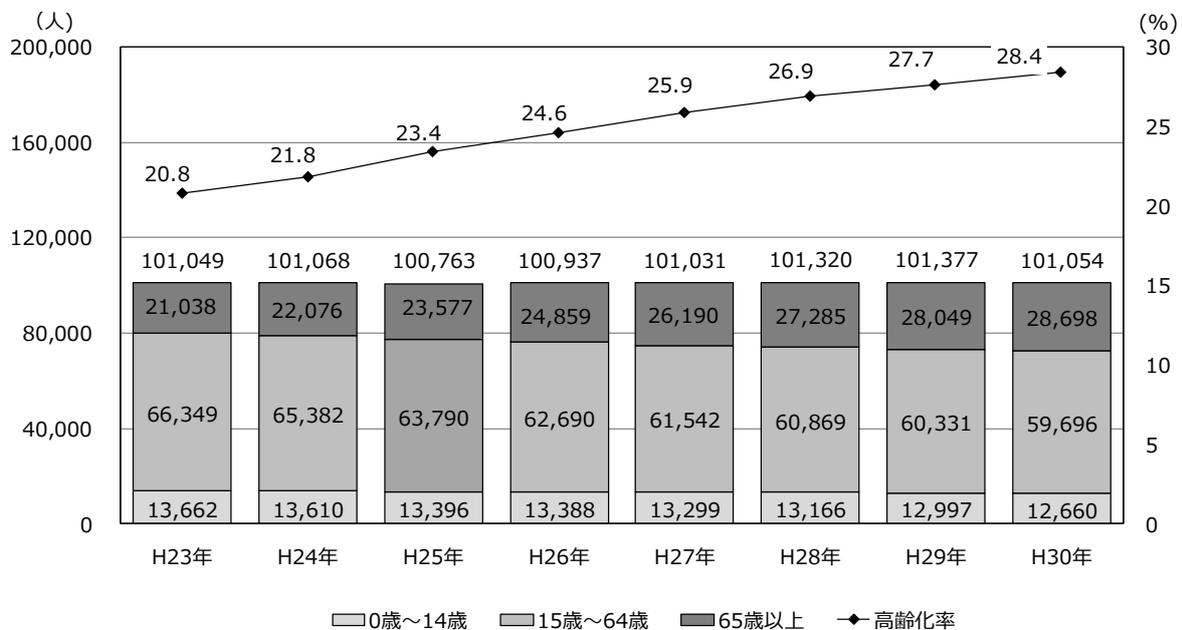
#### (1) 坂戸市の現状

##### ①人口の推移

平成30年4月における本市の人口は、101,054人です。14歳までの年少人口及び15歳から64歳までの生産年齢人口は減少傾向にある一方、65歳以上の高齢者人口は増加傾向にあります。

また、高齢化率の推移をみると、平成23年から平成30年までの8年間で7.6ポイント増加しています。

図2-1 人口の推移

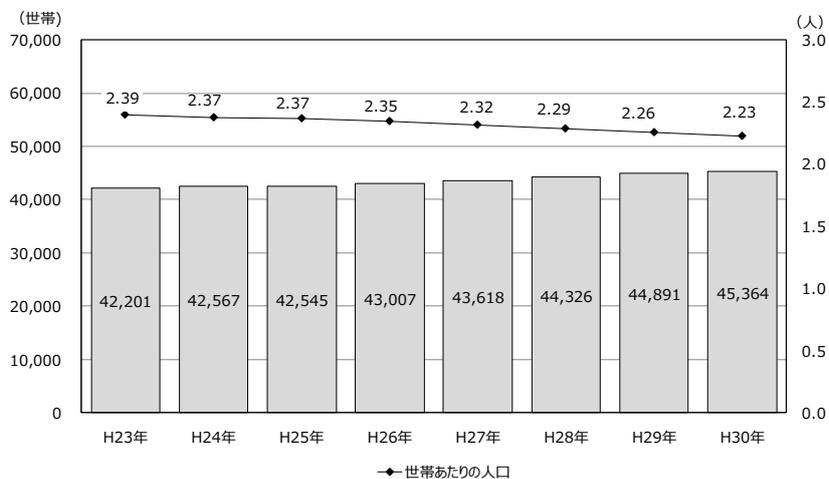


資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

## ②世帯数の推移

本市の世帯数は増加傾向にあり、平成30年では平成23年と比較すると3,163世帯増加していますが、一世帯当たりの人口をみると0.16人減少しています。

図 2-2 世帯数の推移

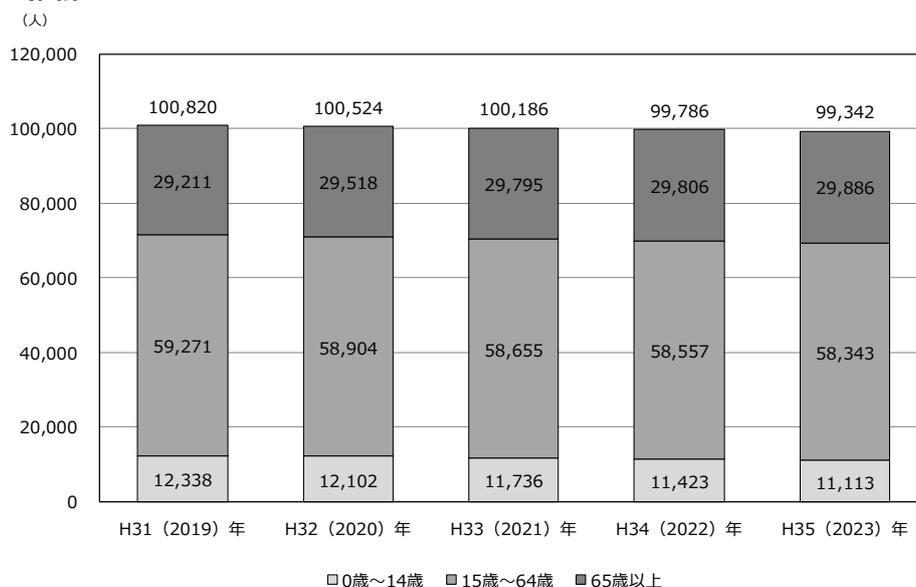


資料：町・字別世帯人口表（各年4月1日現在）

## ③人口推計

本計画の計画期間中の人口推計をみると、14歳までの年少人口及び15歳から64歳までの生産年齢人口は減少傾向が引き続き見込まれます。高齢者人口をみると年々微増傾向が見込まれます。

図 2-3 人口推計



資料：住民基本台帳を基に、コーホート変化率法※を用いて推計

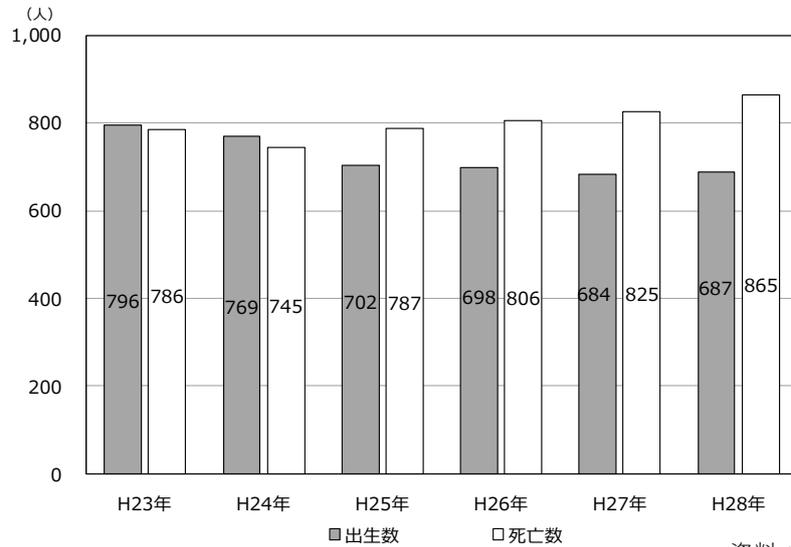
※コーホート変化率法：ある集団の人口変化率が一定だと仮定し、将来の人口を推計することをいいます。

## (2) 出生と死亡

### ① 出生数と死亡数

本市の出生数と死亡数を比較すると、平成 23 年では出生数と死亡数はほぼ同数であったのに対し、平成 28 年では出生数は減少しており、死亡数は増加しています。

図 2-4 出生数と死亡数



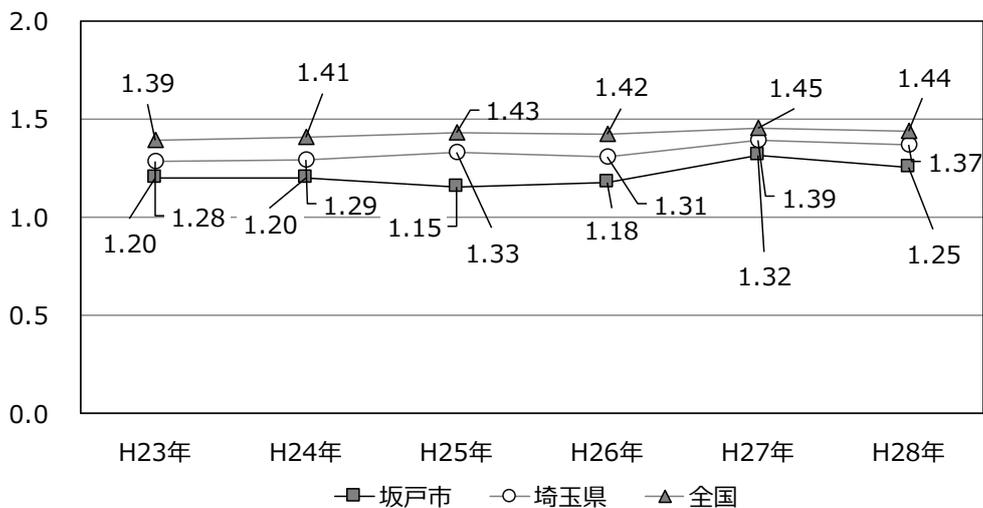
資料：埼玉県人口動態調査

### ② 合計特殊出生率※の推移

本市の合計特殊出生率を埼玉県・全国と比較すると、県や国の数値を下回っています。

また、本市の合計特殊出生率は平成 23 年から平成 28 年にかけて、増減を繰り返しているものの増加傾向にあります。

図 2-5 合計特殊出生率の推移



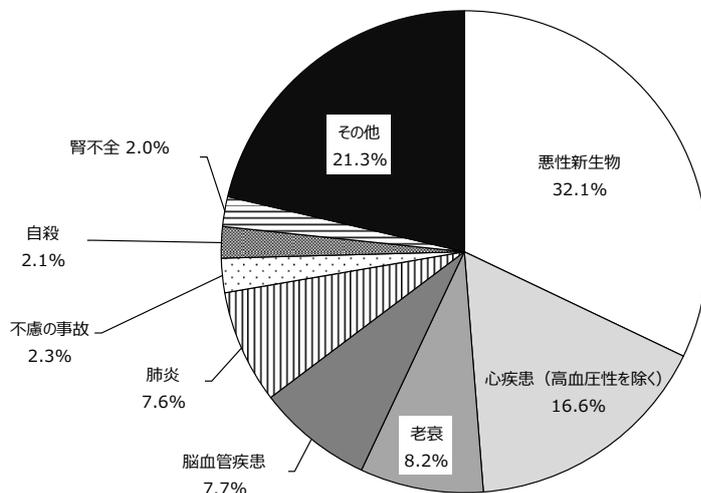
資料：埼玉県人口動態調査

※合計特殊出生率：ひとりの女性が一生に産む子どもの数。その年における 15 歳から 49 歳までの女性の出生率を合計したものです。

### ③死因別割合（平成 28 年）

平成 28 年の本市の死亡者の死因をみると、悪性新生物※が 32.1%と最も多く、次いで心疾患（高血圧性を除く）が 16.6%、老衰が 8.2%と続いています。

図 2-6 死因別割合



資料：埼玉県衛生研究所

※悪性新生物：細胞が何らかの原因で変異して増殖を続け、周囲の正常な組織を破壊する腫瘍のこと。がんなどがこれに該当します。

### ④標準化死亡比※（平成 23 年～平成 27 年）

平成 23 年から平成 27 年までの本市の死亡者について、埼玉県を 100 とした標準化死亡比をみると、男性において心疾患と自殺による死亡が埼玉県全体を上回っています。

また、女性においては全ての項目において埼玉県全体を下回っています。

表 2-1 標準化死亡比

	(%)					
	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	自殺	不慮の事故
男	95.5	106.2	92.9	78.1	105.9	87.2
女	96.6	98.4	88.7	75.2	84.0	84.7
総数	96.4	102.6	91.2	76.8	98.9	86.4
埼玉県	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

資料：埼玉県衛生研究所

※標準化死亡比：年齢構成の違いによる影響を除いて死亡率を比較するための指標。埼玉県の平均を 100 とし、100 を超えると県平均よりも高い死亡率と判定されます。

⑤ ライフステージ別死因順位（平成 24 年～平成 28 年）

平成 24 年から平成 28 年までの本市における 5 年間の死因順位をみると、総数では第 1 位が「悪性新生物」、第 2 位が「心疾患（高血圧性を除く）」、第 3 位が「脳血管疾患」となっています。

また、ライフステージ別にみると「悪性新生物」が中年期と高齢期で第 1 位、壮年期でも「自殺」に次いで第 2 位となっています。特に、中年期においては、「悪性新生物」が死因の約 5 割を占めています。

表 2-2 ライフステージ別死因順位

(単位：%)

	幼年期 0歳～4歳	少年期 5～14歳	青年期 15～24歳	壮年期 25～44歳	中年期 45～64歳	高齢期 65歳以上	総数	
第1位	先天奇形, 変形及び 染色体異常	※	自殺	自殺	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物	
	36.4		83.3	34.0	45.6	30.0	31.3	
第2位	その他の 新生物		不慮の事故	悪性新生物	心疾患 (高血圧性を 除く)	心疾患 (高血圧性を 除く)	心疾患 (高血圧性を 除く)	
	9.1		8.3	25.5	15.8	17.7	17.3	
第3位	脳血管疾患				心疾患 (高血圧性を 除く)	自殺	肺炎	脳血管疾患
	9.1				12.8	6.1	8.8	8.0
第4位	周産期に 発生した病態				不慮の事故	脳血管疾患	脳血管疾患	肺炎
	9.1				7.4	5.6	8.4	8.0
第5位	乳幼児 突然死症候群				肝疾患	肝疾患	老衰	老衰
	9.1				5.3	2.9	7.9	6.9
第6位				脳血管疾患	肺炎	腎不全	自殺	
				3.2	2.4	2.6	2.4	
第7位				肺炎	不慮の事故	不慮の事故	腎不全	
				3.2	2.4	1.9	2.4	
第8位				慢性閉塞性 肺疾患	ウイルス肝炎	慢性閉塞性 肺疾患	不慮の事故	
				1.1	1.0	1.9	2.1	
	その他		その他	その他	その他	その他	その他	
	27.3		8.3	7.4	18.2	20.9	21.8	

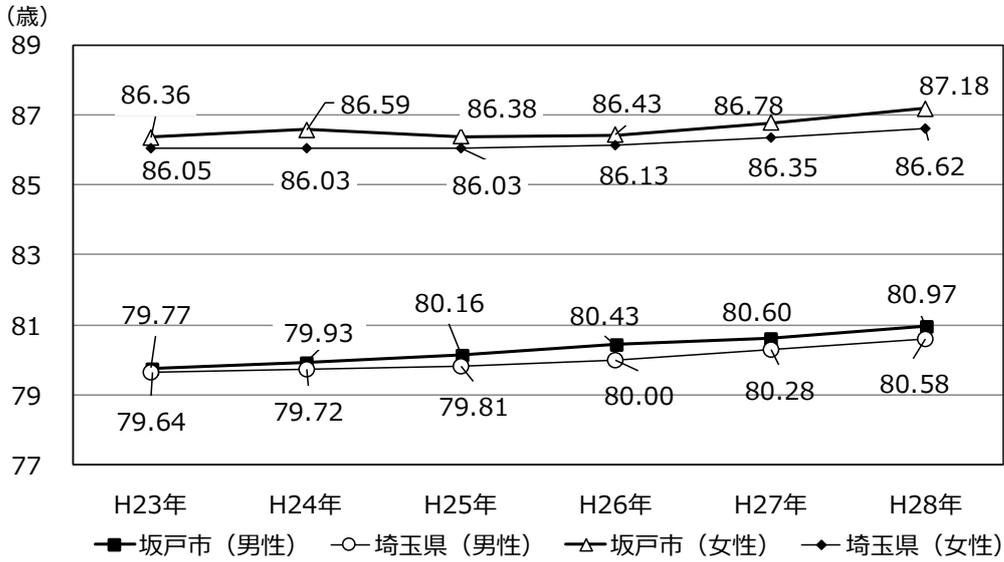
資料：埼玉県衛生研究所

※平成 24 年から平成 28 年までの死亡者数は 0 でした。

⑥平均寿命と健康寿命※

本市の平均寿命についてみると、平成23年から平成28年までの6年間で男性では1.2歳、女性では0.82歳延伸しています。

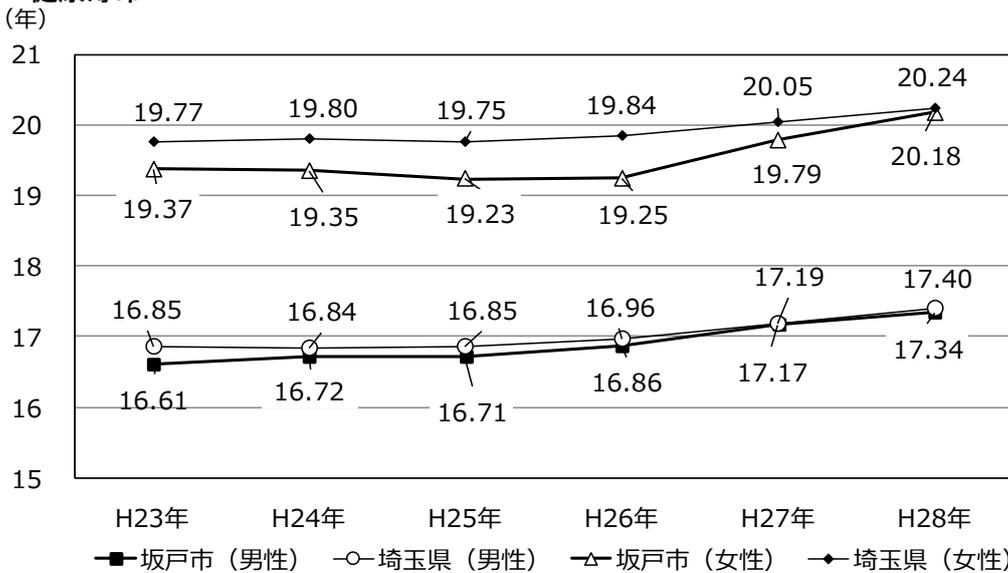
図 2-7 平均寿命



資料：埼玉県衛生研究所

本市の健康寿命についてみると、平成23年から平成28年までの6年間で男性では0.73歳、女性では0.81歳延伸しています。

図 2-8 健康寿命



資料：埼玉県衛生研究所

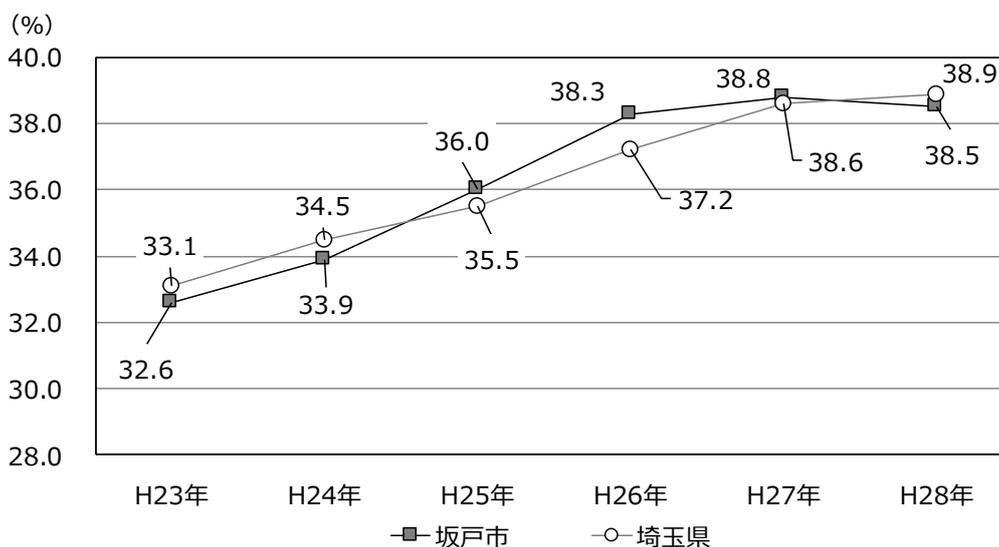
※健康寿命：65歳になった人が要介護2以上になるまでの期間をいいます。

### (3) 健診の受診状況

#### ①特定健康診査の受診率の推移

本市の特定健康診査の受診率の推移をみると、平成23年から平成28年までの6年間で5.9ポイント増加しています。

図 2-9 特定健康診査の受診率の推移

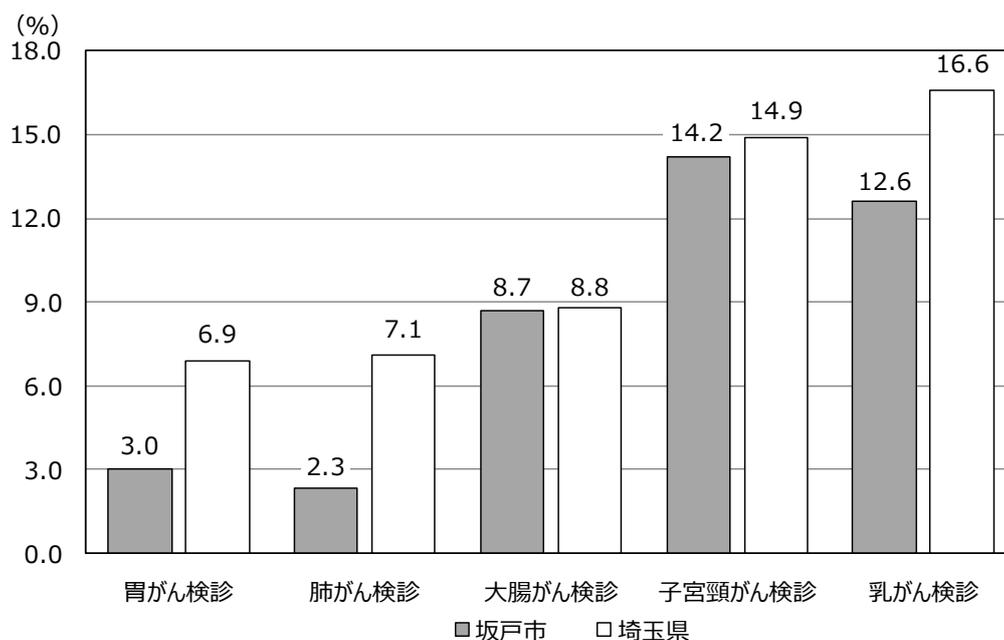


資料：埼玉県衛生研究所

#### ②がん検診の受診状況※（平成28年）

平成28年の本市のがん検診の受診状況は、埼玉県と比べて低くなっています。

図 2-10 がん検診の受診状況



資料：地域保健・健康増進事業報告

※健康増進法第19条の2に基づいて市町村が実施するがん検診。

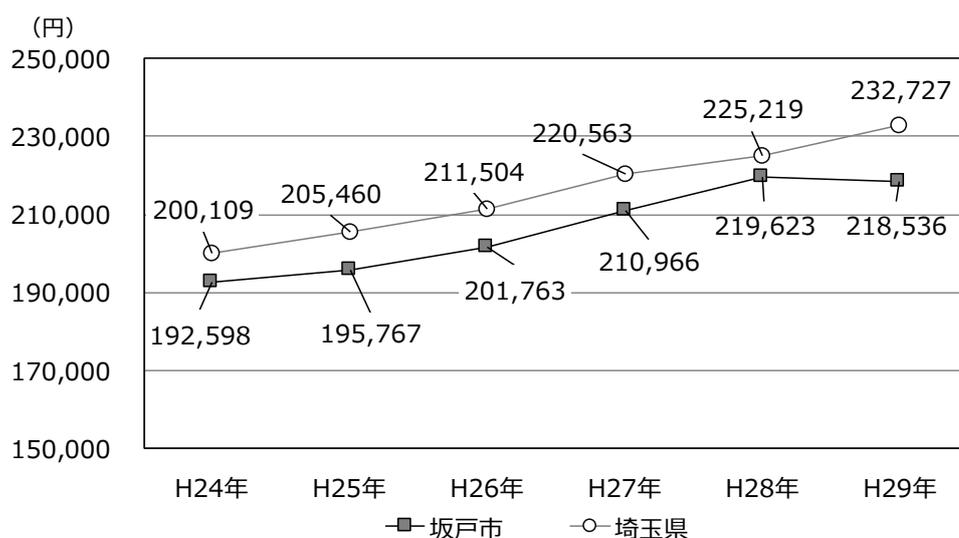
#### (4) 医療費の状況

坂戸市国民健康保険における医療費では、平成24年と平成29年を比較して、医科は25,938円増加、歯科は386円増加、調剤は8,710円増加しています。

また、埼玉県と比較すると、調剤（平成25年～平成27年）を除いて医療費は下回っています。

##### ① 医科

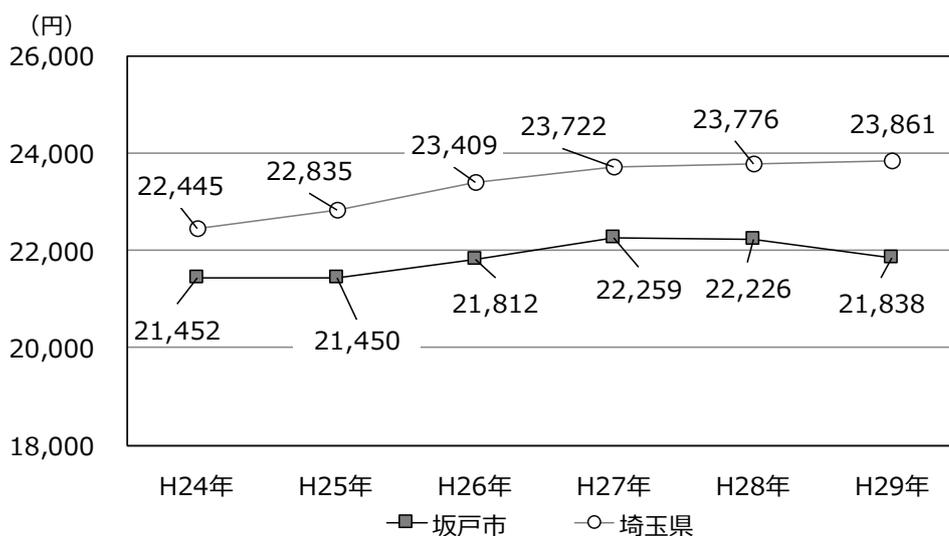
図 2-11 医療費（医科）の推移



資料：埼玉県国民健康保険団体連合会

##### ② 歯科

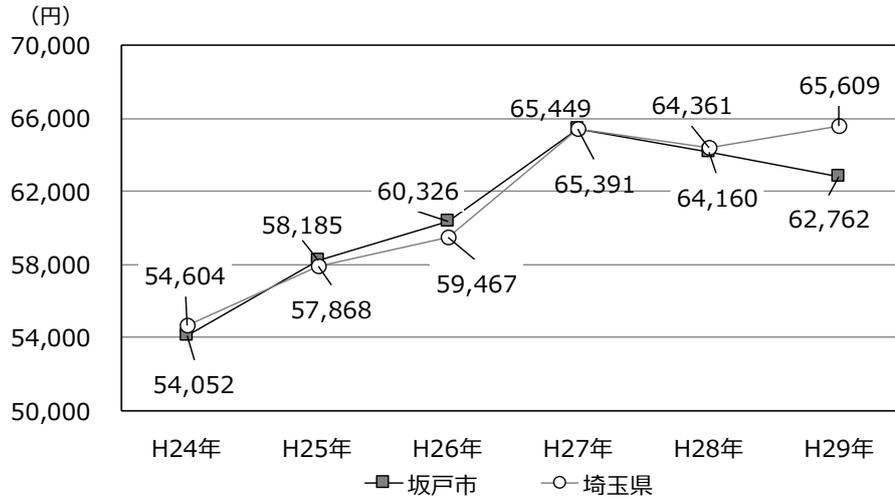
図 2-12 医療費（歯科）の推移



資料：埼玉県国民健康保険団体連合会

③調剤

図 2-13 医療費（調剤）の推移

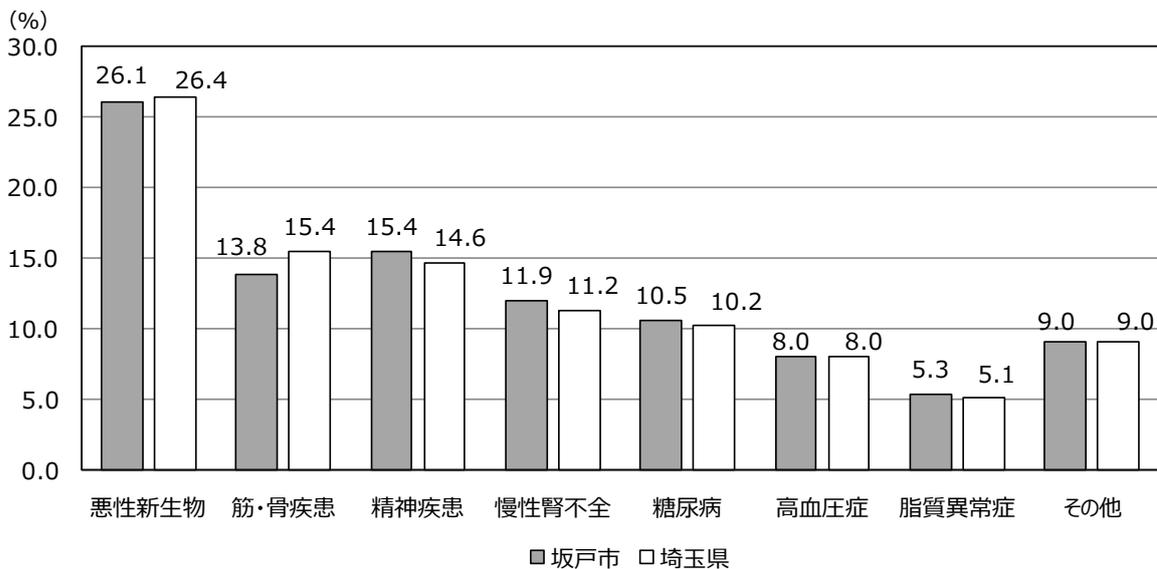


資料：埼玉県国民健康保険団体連合会

④医療費データの分析（平成 29 年度）

平成 29 年度の坂戸市国民健康保険被保険者の医療費データの割合を埼玉県と比較すると、ほとどの疾病も同じ割合となっていますが、「筋・骨疾患」がやや低くなっています。

図 2-14 医療費データ分析



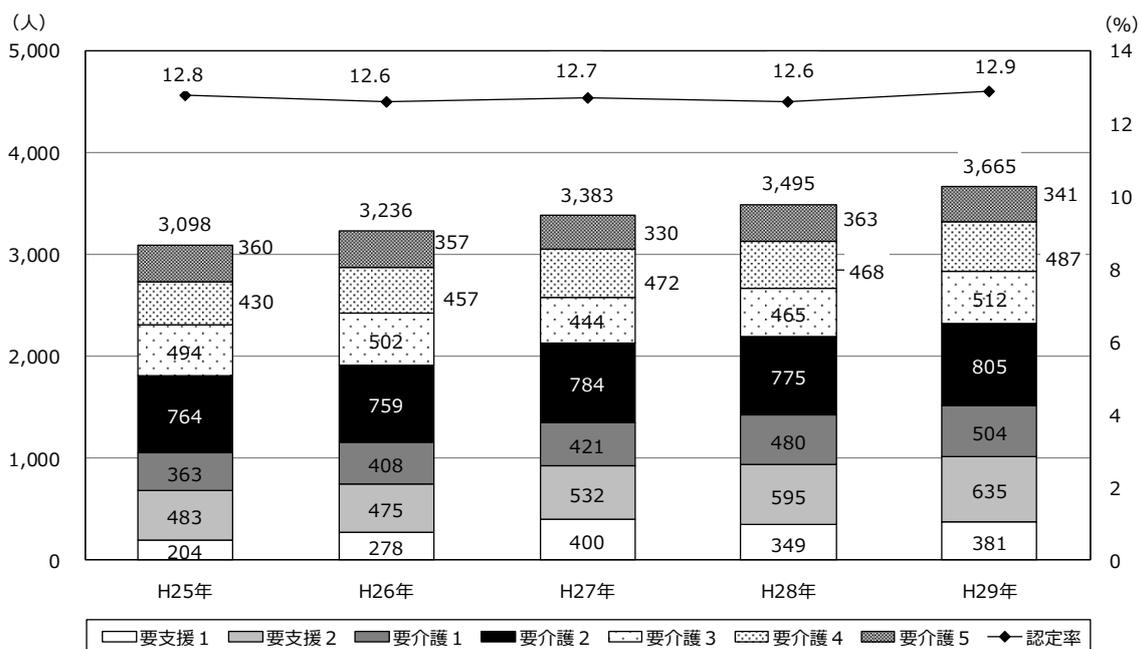
資料：KDB システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

## (5) 介護保険の状況

### ①要支援・要介護認定者数及び認定率の推移

本市における要支援・要介護認定者数の推移をみると、平成25年から平成29年にかけて567人増加しています。特に、要支援1の増加が多くなっており、177人増加しています。

図 2-15 要支援・要介護認定者数及び認定率の推移



資料：坂戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画

## 2 市民アンケート調査の概要

- ①目的：本計画の中間評価及び「坂戸市いのち支える自殺対策計画」の策定に当たり、市民の運動、食事、こころの健康などについての習慣や意識などについて把握することを目的として「こころとからだの健康に関する市民アンケート調査」を実施しました。
- ②調査期間：平成 30 年 7 月 20 日～平成 30 年 8 月 9 日
- ③対象者：市内在住の満 15 歳以上の男女 1,050 人
- ④調査方法：郵送配布、郵送回収
- ⑤回収結果

対象者	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回収率
10 歳代	150	51	34.0%	51	34.0%
20 歳代	150	39	26.0%	39	26.0%
30 歳代	150	58	38.7%	58	38.7%
40 歳代	150	55	36.7%	55	36.7%
50 歳代	150	69	46.0%	69	46.0%
60 歳代	125	83	66.4%	83	66.4%
70 歳代	100	68	68.0%	68	68.0%
80 歳代以上	75	55	73.3%	55	73.3%
無回答	—	3	—	3	—
合計	1,050	481	45.8%	481	45.8%

- ① 調査結果（P28～）については、性別及び年代の設問に対して、無回答者がいるため、性別・年代の n は全体の回答数と異なります。
- ② 各設問については、資料編にあるアンケート調査票（P90～）を参照ください。

### 3 前期計画の評価

#### (1) 評価基準と評価区分

評価基準	評価区分	評価の数
計画策定時よりも改善	A	6
計画策定時よりも低下	B	28
評価困難	C	3
指標変更	D	12

#### (2) 重点目標と基本目標の評価

##### ① 楽しくかしこく食べて健康な心と身体を育む

指 標	H25 (2013)年度 計画策定時	H30 (2018)年度 中間値	評価	H35 (2023)年度 目標値
朝食を毎日食べる 20 歳代の市民 (20 歳代)	58.2%	59.0%	A	65.0%
主食・主菜・副菜のそろった食事を 1 日 2 回以上 とっている市民 (20 歳以上)	78.1%	76.6%	B	85.0%
塩分をとり過ぎないようにしている市民 (20 歳以上)	74.4%	79.2%	A	80.0%
よく噛んで食べている市民 (20 歳以上)	78.4%	77.5%	B	85.0%
自分で手作りの食事を準備できる市民 (15 歳以上)	82.7%	76.5%	B	90.0%
日々の食事が動植物の命や自然の恵みによって 成り立っていることをいつも感じる市民 (15 歳以上)	33.7%	29.3%	B	50.0%
家族や友人と食事をする日が週 6 回以上ある 市民 (20 歳以上)	73.2%	64.6%	B	80.0%
坂戸産の食材を利用している市民 (20 歳以上)	55.2%	51.5%	B	65.0%
自分にとって適切な食事内容、量を知っている 市民 (20 歳以上)	87.2%	83.1%	B	増加
食材・食品を入手する際、安全性を重視してい る市民 (20 歳以上)	85.2%	—	C	—
葉酸 (ようさん) というビタミンをよく知って いる市民 (20 歳以上)	36.4%	36.8%	A	増加
1 日に野菜料理を 5 皿以上食べている市民 (20 歳以上)	7.9%	9.8%	A	増加
外食をする時に、栄養のバランスを意識して メニューを選ぶ市民 (20 歳以上)	52.1%	—	C	—

食を通じた健康づくり応援店を知っている市民 (20歳以上)	30.2%	41.0%	A	増加
ほぼ毎日、朝食を家族の全員またはほとんどの 人と一緒に食べている市民 (20歳以上)	54.8%	40.8%	B	増加
ほぼ毎日、夕食を家族の全員またはほとんどの 人と一緒に食べている市民 (20歳以上)	63.7%	54.5%	B	増加

は重点目標

## ②日常的に楽しく身体を動かす

指 標	H25 (2013)年度 計画策定時	H30 (2018)年度 中間値	評価	H35 (2023)年度 目標値
週4日以上、意識的に身体を動かしている市民 (20歳以上)	46.7%	35.1%	B	55.0%
日頃楽しく運動をしている市民 (20歳以上)	52.1%	44.7%	B	60.0%
1日に1時間以上歩いている市民 (20歳以上)	31.6%	25.5%	B	増加

は重点目標

## ③自分らしく生き生きチャレンジする

指 標	H25 (2013)年度 計画策定時	H30 (2018)年度 中間値	評価	H35 (2023)年度 目標値
夢・生きがい・目標を持つ市民 (20歳以上)	73.9%	67.9%	B	80.0%
自分らしい人生を送る市民 (20歳以上)	76.3%	74.5%	B	85.0%

は重点目標

## ④人と人がふれあう機会をつくる

指 標	H25 (2013)年度 計画策定時	H30 (2018)年度 中間値	評価	H35 (2023)年度 目標値
月1回以上、地域活動に参加する市民 (20歳以上)	30.7%	23.7%	B	40.0%
自分から積極的に外出する市民 (20歳以上)	66.0%	55.7%	B	75.0%
いつも家族や仲間と囲まれて生活している市民 (20歳以上)	91.4%	84.1%	B	95.0%

身近な人にあいさつをしている市民(20歳以上)	97.6%	94.6%	B	100.0%
-------------------------	-------	-------	---	--------

は重点目標

### ⑤自分自身の身体をいたわる

指 標	H25 (2013) 年度 計画策定時	H30 (2018) 年度 中間値	評価	H35 (2023) 年度 目標値
●毎年、定期健康診断（特定健診含む）を受けている市民（20歳以上）	66.3%	—	D	75.0%
■過去1年以内に健診や人間ドックを受けている市民※	—	72.6%	D	80.0%
年に1回以上歯科健診を受けている市民（20歳以上）	46.1%	38.4%	B	50.0%
歯や歯ぐきについて気になることがない市民（20歳以上）	32.5%	36.5%	A	増加
●毎年、胃がん検診を受けている市民（20歳以上）	15.6%	—	D	増加
■過去1年以内に胃がん検診を受けた市民（20歳以上）※	—	31.6%	D	増加
●毎年、肺がん検診を受けている市民（20歳以上）	15.6%	—	D	増加
■過去1年以内に肺がん検診を受けた市民（20歳以上）※	—	27.9%	D	増加
●毎年、大腸がん検診を受けている市民（20歳以上）	23.2%	—	D	増加
■過去1年以内に大腸がん検診を受けた市民（20歳以上）※	—	35.8%	D	増加
●毎年、乳がん検診を受けている市民（20歳以上の女性）	15.9%	—	D	増加
■過去1年以内に乳がん検診を受けた市民（20歳以上の女性）※	—	27.5%	D	増加
●毎年、子宮がん検診を受けている市民（20歳以上の女性）	17.7%	—	D	増加
■過去1年以内に子宮頸がん検診を受けた市民（20歳以上の女性）※	—	33.9%	D	増加
健康診断で異常が認められたとき、それに基づいて生活習慣を見直している市民（20歳以上）	49.8%	34.9%	B	増加
お酒を飲まない日（休肝日）を週1回以上作っている市民（20歳以上）	60.3%	—	C	—

タバコを吸っていない市民（20歳以上）	83.2%	82.4%	B	増加
他人にタバコの煙を吸わせないようにしている市民（20歳以上喫煙者）	77.7%	76.9%	B	増加
心身の疲労回復のための方法を持っている市民（20歳以上）	51.3%	49.4%	B	増加

は重点目標

※設問の内容を変更したため指標が変わるもの。

●は計画策定時の指標

■は中間値の指標

### ⑥みんなで健康を支える環境をつくる

指 標	H25 (2013)年度 計画策定時	H30 (2018)年度 中間値	評価	H35 (2023)年度 目標値
いざという時、助け合える環境が身近にあると感じる市民（20歳以上）	75.9%	67.2%	B	85.0%
歩いていて気持ちの良いきれいな景観、楽しい景観などがあると感じる市民	66.5%	61.6%	B	70.0%
自分が住んでいる地域の人々はお互いに助けあっていると思う市民	55.2%	48.9%	B	増加
坂戸市の健康づくりの取組についてよくやっている方だと思う市民（20歳以上）	27.0%	25.1%	B	増加
坂戸市に住み続けたい市民（20歳以上）	85.0%	82.2%	B	増加

は重点目標